

実証実験

市町村災害対応統合システム (IDR4M) の火山噴火への適用

山梨大学地域防災・マネジメント研究センターは、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP「国家レジリエンス (防災・減災) の強化」防災情報共有システムを基盤とした文理融合型の地域レジリエンス強化) の研究プロジェクト (令和3年度～令和4年度) において、富士吉田市、富士河口湖町、山梨県と連携し、市町村災害対応統合システム (IDR4M) を火山噴火に適用することにより、富士山噴火時に様々な噴火現象のシミュレーション結果の統合を実現し、市町村の適時的確な避難の判断を支援する火山避難判断支援システムの開発を進めて参りました。

このたび、開発したシステムを実演するとともに、同市町の防災担当職員を対象とした図上演習を行い、システムの機能性、有効性等の検証を行います。

日時

2022
10/28^{FRI}
14時～17時
(13:15 開場)

場所

山梨県
富士山科学研究所 ホール
(富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1)

第1部

実演 14時00分～14時30分

取材 14時30分～15時00分

対象 首長・幹部職員(富士吉田市、富士河口湖町)
報道機関

～休憩～

第2部

図上演習 15時00分～16時30分

対象 防災担当職員(富士吉田市、富士河口湖町)

火山噴火時の警戒避難体制構築プロセスの確立

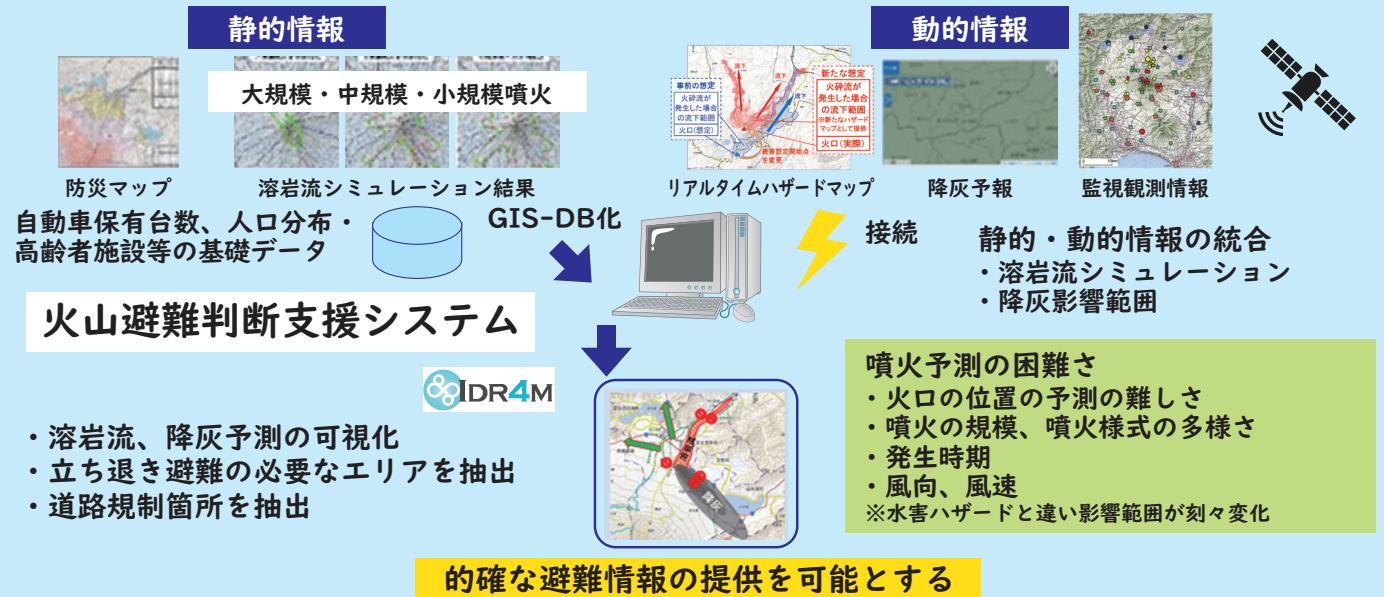
課題

火山噴火時に情報集約が不十分なため、避難の情報提供が的確にできない

対応策

火山噴火時の警戒避難体制構築プロセスの確立

IDR4M を火山災害に適用し、市町村長の火山噴火時に適時的確な意思決定を支援する火山避難判断支援システムを開発し、地域主体の警戒避難体制を構築するプロセスを確立する。また、火山噴火の静的・動的データの統合を実現し、火山噴火時に市町村長の適時的確な避難の判断を支援するシステムを開発する。



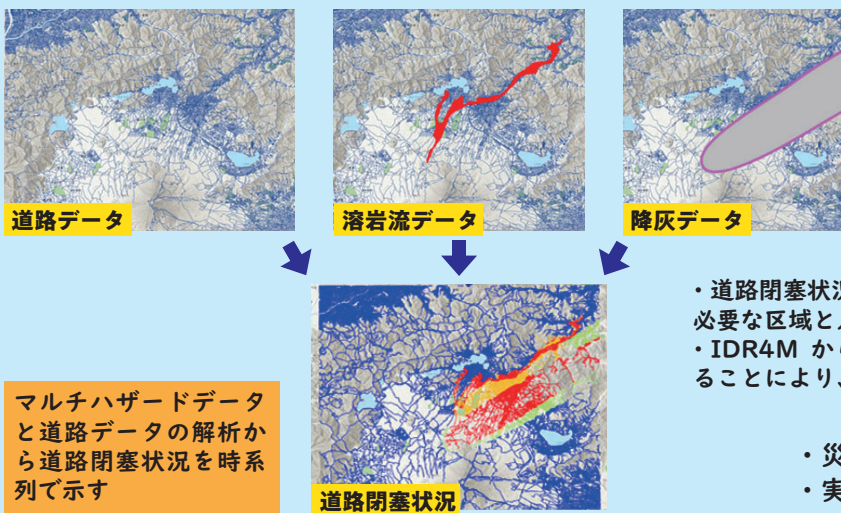
文理融合

住民の火山災害時の避難行動体系を把握

IDR4M への反映

火山ハザード情報の統合とリスク情報の可視化

IDR4M 上でリアルタイムハザードマップや降灰予報等の溶岩流や降灰等の動的ハザード情報を統合し、道路閉塞箇所の抽出、避難が必要な区域と人口の算出等、リスク情報の可視化を実現する。



訓練機能の実装

IDR4M 上で任意の噴火口を設定し、ハザード情報を進行させる機能を実装することにより、実践的な訓練シナリオ生成を可能とする。

- 道路閉塞状況データと都市基盤データの照合により、避難が必要な区域と人口の算出ができる
- IDR4M から任意の噴火口を設定しハザード情報を進行させることにより、訓練用ツールとして活用できる

- 災害時におけるリスク情報の可視化
- 実践的な訓練シナリオ生成

取組により得られた効果

IDR4M により、火山噴火により見込まれる溶岩流や道路閉塞等の被害発生状況を把握することで、住民の避難に資する的確な情報提供が支援される

全国展開の加速化

IDR4M に火山災害による避難判断支援としての機能を拡張することで、全国展開を加速する。